

令和4(2022)年度 生涯学習・社会教育に関する調査研究 生涯学習指導者研修修了者の 地域での活動状況調査

～ 家庭教育支援者の養成研修について ～



- 『全ての教育の出発点』と言われる家庭教育。そんな家庭教育を支援する方々の養成を目的とした研修は、昭和62(1987)年度のスタートから現在に至るまで、継続的に実施されてきました。そしてその修了者は、県内各地で保護者同士が子育てについて学び合う機会の確保と充実、親子がふれあいながら行う様々な体験活動の場づくり等、地域に根ざした活動の担い手として活躍しています。
- 現在、少子高齢化や地域のつながりの希薄化などが進み、子育てに不安を抱える家庭が少なくない状況です。まさに今、地域社会全体で子育てや家庭教育を支援する取組の充実が望まれています。
- 県内の家庭教育支援の取組をさらに充実するために、**研修プログラムの見直しと改善**と**研修修了者の活動支援の充実**を目的として、調査研究を実施しました。
- 本リーフレットには、調査結果の分析から見えてきた『今後の家庭教育支援者養成研修の在り方』と、『修了者の活動の在り方』をまとめました。県内各地で行われている家庭教育支援の活動充実・活性化に向け、参考としていただけると幸いです。

*家庭教育支援者養成研修の現状は…

家庭教育支援プログラム指導者研修

全5日間(5月～8月)

(ねらい) 「家庭教育支援プログラム^{*1}」を実践するための知識・技術などを身に付ける。

(対象) 地域で家庭教育支援活動に携わる方またはその意欲のある方、市町の教育関係職員 等

(主な内容)

- ・本県の家庭教育支援施策についての説明
- ・家庭教育支援プログラムについての説明
- ・家庭教育支援の現状・方策等についての講話
- ・「家庭教育支援プログラム」参加体験・活動事例発表
- ・ファシリテーターの役割についての説明・演習
- ・実施プログラムの準備とファシリテーター体験(グループワーク)



家庭教育オピニオンリーダー研修

全6日間(8月～11月)

(ねらい) 「家庭教育オピニオンリーダー^{*2}」の活動について学び、地域に根ざした家庭教育の支援に必要な知識・技能を身に付ける。

(対象) 地域で家庭教育支援活動に携わる方またはその意欲のある方、PTAで活躍している方

(主な内容)

- ・本県家庭教育支援施策と家庭教育オピニオンリーダーの活動の説明
- ・フィールドワーク(家庭教育オピニオンリーダー連合会支部活動の体験)
- ・子育て家庭の現状とその支援等に関する講話
- ・子ども理解(幼児)についての講話
- ・カウンセリングマインドに関する講話・演習
- ・家庭教育支援事業の企画・発表(グループワーク)



^{*1}… 子育てに必要な知識やスキルについて、保護者同士が身近なエピソードやワークをとおして交流しながら主体的に学ぶ参加体験型の学習プログラム。「親学習プログラム」「親学習プログラムアレンジ版」「思春期版家庭教育支援プログラム」の3種類がある。

^{*2}… 家庭教育支援の指導者として研修を受けた「子育ての先輩」達。公民館などで、子どものしつけや育児、家族のあり方などの相談にのったり、学習会を開催したりするなどの活動をしている。活動の母体として、「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を組織している。

*調査の概要は…

(対象) H30～R3の家庭教育支援者養成研修修了者 計159名

(方法) ①質問紙調査 ②聞き取り調査

(内容) *調査項目 ・研修修了後の状況(活動への興味関心・参加状況満足度 等)
・研修内容の活用状況(活用の有無、役立った研修内容、身に付けたかった知識技能 等)
*質問項目 ・活動の実態 ・研修での学びと活動の結びつき ・今後の活動の見通し

→詳しくは、Webサイト「とちぎレインボーネット」を御覧ください。

*回答者の特徴は…

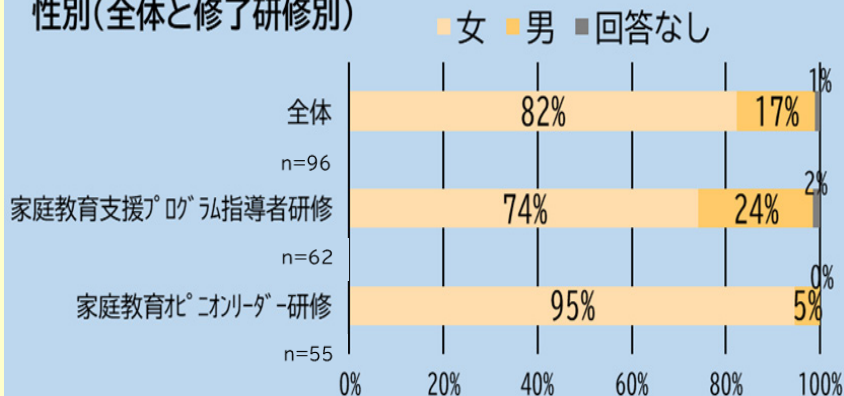
○女性が約 82%、男性が約 17%、その他が約 1%です。修了研修別でみると、家庭教育支援プログラム指導者研修では約 74%、家庭教育オピニオンリーダー研修では約 95%が女性です。

○最も多いのは 60 歳代です。
40～60 歳代の方がとても多いことが分かります。

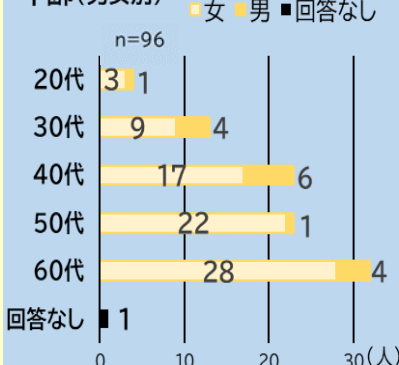
○20～30 歳代の比較的若い世代は全体の 2 割以下で、その半数以上は行政関係者です。

▶ 若い世代の一般の方々や男性等、これまで数が少なかった属性の方々にも受講しやすい研修としていく工夫が必要です。

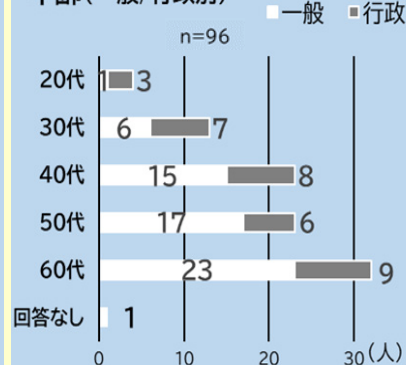
性別(全体と修了研修別)



年齢(男女別)



年齢(一般/行政別)



*質問紙調査の結果<1>

家庭教育支援の活動活性化に向けて

○研修後に家庭教育支援の活動への「興味関心」と「参加意欲」が『高まった』という回答は、回答数全体の 90%を超えています。家庭教育支援者養成研修の受講と家庭教育支援の活動とのつながりは、非常に強いことが確認できます。

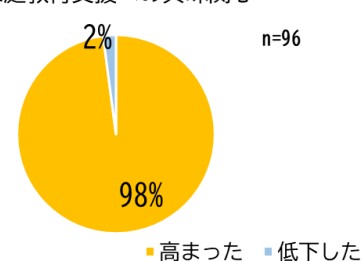
○家庭教育支援プログラム指導者研修のみを修了した回答者の 73.2%、家庭教育オピニオンリーダー研修のみを修了した回答者の 64.7%、どちらの研修も修了した回答者の 90.5%が家庭教育支援の活動に参加していました。2つの家庭教育支援者養成研修を修了し学びを深めることが、実際の家庭教育支援の活動に結び付いている様子が確認できます。

○家庭教育支援者養成研修は、その修了者が組織する「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」等の活動団体からの協力を得て実施されています。このことは、特に修了者が家庭教育支援の活動へと円滑に移行する上で、非常に大きな手助けとなっています。

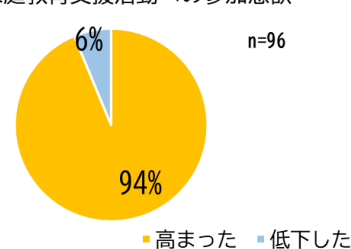
▶ 家庭教育支援者の養成研修の受講者を増やすことにより、家庭教育支援の活動への興味関心や参加意欲を高め、参加者の増加と、今ある活動の充実・活性化につながる可能性が高いと考えられます。



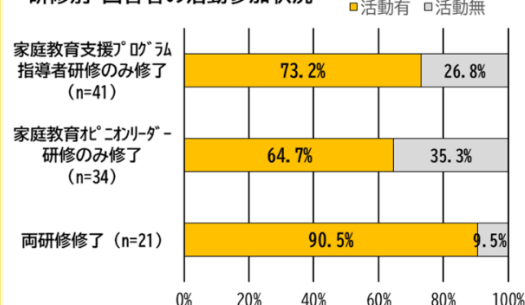
家庭教育支援への興味関心



家庭教育支援活動への参加意欲



研修別 回答者の活動参加状況



* 質問紙調査の結果<2>

家庭教育支援プログラム指導者研修充実に向けて

○「研修をとおしてもっと詳しく学びたかったこと」への回答は、受講者の属性（『一般』及び『行政』）によって傾向が異なりました。（下表参照）

	一般(n=22)	行政関係(n=28)
回答割合	ファシリテーションの技術 (63.6%)	ファシリテーションの技術 (53.6%)
高	県内団体や各市町の活動事例発表 (50.0%)	家庭教育支援の現状や課題・方策 (50.0%)
	ファシリテーター体験やプログラムの参加体験 (45.5%)	県内団体や各市町の活動事例発表 (39.3%)
	家庭教育支援の現状や課題・方策 (36.4%)	ファシリテーター体験やプログラムの参加体験 (10.7%)
低		特になし (10.7%)

○このことは、家庭教育支援プログラムを用いた保護者の学習の機会において両者の果たす主な役割の違いに由来していると考えられます。

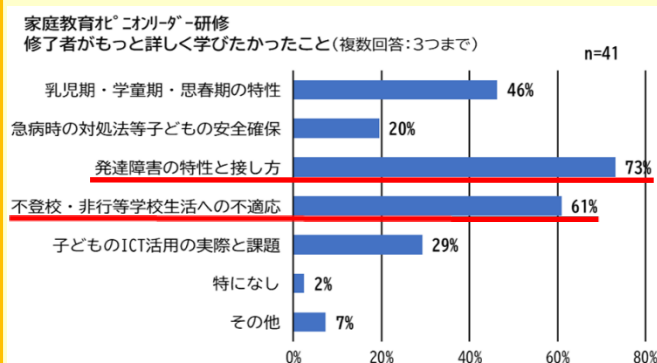
つまり…

保護者の学びの「ファシリテーター」⇒一般
学びの場の「コーディネーター」⇒行政関係者

▷実際の活動において果たす役割を意識しながら取り組むことのできるワークを取り入れるなど、属性ごとの学びのニーズを考慮した研修運営や内容の工夫が必要です。

家庭教育オピニオンリーダー研修充実に向けて

○「研修をとおしてもっと詳しく学びたかったこと」への回答から、多くの受講者は近年の子育て家庭を取り巻く課題について、さらに学びたいと感じていることが明らかになりました。（下表参照）



○一方で、現在の研修内容は家庭教育オピニオンリーダーの活動の根幹につながるものであり、学ぶ必要性が高いといえます。

▷家庭教育支援の活動充実に資する別の研修機会を案内するなど、受講者や修了者の学習をサポートする取組を、さらに充実させていく必要があります。



* 聞き取り調査の結果から…

○質問紙調査から充実した活動を行っている様子が伺えた回答者5名に行った聞き取り調査の結果からは、家庭教育支援者養成研修の充実や、研修修了者の活動の活性化につながる「手がかり」「ヒント」を得ることができました。その活動の主な特徴をまとめると、次のようになります。

活動の特徴	実際の取組
参加者のニーズに応じた活動を展開している。	・家庭教育を取り巻く現代的な課題の一つである「ICTの安全な活用」「ネットモラル」について学ぶ機会を提供している。 ・「プログラミング」「SDGs」といった、近年話題となることの多い内容について学ぶ機会を提供している。 ・アンケート調査で学習ニーズを把握し、事業立案に生かしている。 ・事業後のアンケートで参加者の声を聞いている。
深化した学びや豊富な経験、職務上等で身に付けた高い専門性を生かしている。	・様々な機関で実施する様々な研修を受講しその成果を活用している。 ・活動団体内で先輩活動者から受け継いだノウハウやスキルを活用している。 ・自身の本業における職務上入手しやすい機材を活用した活動を展開している。
様々な「人とのつながり」を生かしている。	・市や学校と連携しネットモラル等について学ぶ機会を提供している。 ・市生涯学習課、市内全公民館の社会教育指導員、県家庭教育オピニオンリーダー連合会の市内全3支部が連携し「家庭教育支援プログラム」を行っている。 ・町行政関係各課、学童保育施設、農家、書籍販売店等との連携により親子で参加する梨狩りツアーを行っている。

▷これらの活動の実践者が有する経験やスキル等は、家庭教育支援の活動をより充実したものにしていくために重要な能力の一部であると考えられます。

* 今後の研修や活動の在り方は…



○今後の家庭教育支援の活動充実・活性化に向けて、今回の調査研究で確認することができた「家庭教育支援者養成研修の在り方」及び「修了者の活動の在り方」は、次のとおりです。

『家庭教育支援者養成研修の在り方』

▶▶ 多くの方々に研修を受講いただくこと

家庭教育支援者養成研修は、家庭教育支援の活動に必要な知識やスキルを身につけることで、活動への興味関心や参加意欲を高め、「活動の担い手」を生み出します。活動者が増えることは、活動の充実や活性化への有効な一手です。

- 研修の受講者を増やすことが、本県における家庭教育支援の充実につながります。
- 研修の実施方法や修了条件、広報の仕方等を見直し、多くの方々にとって受講しやすい研修とする必要があります。

▶▶ 各研修の「充実に向けたポイント」に注力すること

「家庭教育支援プログラム指導者研修」では…

- 活動の現場で、属性(一般と行政)に応じた役割を果たすために必要な知識やスキルを、効果的に高めるための工夫が必要です。

「家庭教育オピニオンリーダー研修」では…

- 活動の充実に向け学びを深められる機会の案内等、受講者・修了者・活動者の学びをサポートする取組を充実させることが必要です。

▶▶ 活動に親和性が高い方の受講を促進すること

『家庭教育支援の活動充実につながるポイント』として、「子育て・家庭教育の関係機関とのつながり」、「多様な人脈」、「(家庭教育支援の活動につながる)高い知識・スキル」などが見えてきました。

- このような特徴・特性を有する方に対して積極的に受講の働きかけを行うことも、現在の活動を更に充実する「担い手」を増やすことにつながります。

『修了者の活動の在り方』

▶▶ 地域の実態や流行などのニーズに対応した活動とすること

アンケート調査の結果を基に事業を展開することや、参加者の声を確認しながら事業を見直し改善することは、活動の充実や活性化につながる重要な取組です。

▶▶ 活動の実践に必要な知識やスキルを磨くこと

活動者の本業を遂行する上で必要な能力を応用できる場合もありますが、基本的に研修修了後も学びを継続することが活動の充実・活性化につながることを、今回の調査結果からも確認できます。

▶▶ 仲間と共に活動する体制を充実させること

活動者は、多様な仲間と共に一つのチームとして機能できるよう努めることが必要です。またその支援者は、今回の調査のように研修の「アウトカム」を定期的に確認し、各市町等とも共有しながら、活動団体に対し一体感のある支援を行っていく必要があります。

栃木県総合教育センター生涯学習部

令和5(2023)年3月

電話 : 028-665-7206

Fax : 028-665-7219

E-mail : skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

・詳しくは、Webサイト「とちぎレインボーネット」を御覧ください。

URL <https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/>



とちぎレインボーネット

